教育研究業績書

2025年05月07日

所属： 景観建築学科　　資格： 教授　　氏名： 田﨑　祐生

研究分野	研究内容のキーワード
建築論・建築設計	住まうこと、場所、建てること
学位	最終学歴
博士（工学）,工学修士,工学士	京都大学大学院 工学研究科 建築学専攻 博士課程 満期退学

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1.日本盛酒蔵煉瓦館でのイベントにおけるパンタ・ゲルの利用	2013年10月05日から2013年10月06日	「日本酒の日」の催しとして日本盛の酒蔵煉瓦館2階ホールで開催された煉瓦館BARやコンサートの会場として、パンタ・ゲルを組み立てて活用した。
2.パンタ・ゲルの設計および制作	2013年05月から2013年07月	モンゴルのゲルの実測・組立を通して、その特徴を理解した上で、今日の日本において、運搬や組立・解体がより容易で、制作の諸負担も少ない新しいゲルの設計を目指した。学生との協議を踏まえ、ワン・バイ・フォー材を主要材料とし、丸棒による一軸回転のピンを用いたパンタ形式のゲルを実作した。
2 作成した教科書、教材		
1.世界建築史スライドおよび資料（改訂）	2014年04月	世界建築史（猪股講師と共同担当）において、従来の資料に加え、ヨーロッパ近世建築に関するスライドを制作し、パワーポイントにまとめている。
2.近代建築史スライドおよび資料（改訂）	2014年03月	近代建築史（猪股講師と共同担当）において、従来の資料に加え、近代初期の芸術運動、建築運動および北アメリカにおける近代建築、さらにポストモダン建築に関するスライドを制作し、パワーポイントにまとめている。
3.世界建築史スライドおよび資料	2010年09月	世界建築史（加藤講師と共同担当）において、ヨーロッパ古代建築、ヨーロッパ近世建築とイスラム建築に関して、教科書および図集で不足している写真などのスライドを制作し、パワーポイントにまとめている。
4.近代建築史スライドおよび資料	2010年04月	近代建築史（加藤講師他と共同担当）の授業において、教科書および図集で不足している写真などを中心に、近代前期のヨーロッパ、北アメリカの建築物のスライドを制作し、パワーポイントにまとめている。
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		
1.インターンシップの指導、研修先訪問（2014年春期）	2014年03月	建築学科3年生のインターンシップ活動の指導と各学生の研修先である建設会社、設計事務所などの訪問、研修先との打ち合わせなど
2.インターンシップの指導、研修先訪問（2013年夏季）	2013年08月から2013年09月	建築学科3年生のインターンシップ活動の指導と各学生の研修先である建設会社、設計事務所などの訪問、研修先との打ち合わせなど
3.武庫川女子大学附属高等学校科学演習実験Ⅲ	2013年05月26日	附属高等学校SSH３年生対象の授業として、建築学科甲子園会館アトリエにおいて、平面の組み合わせによる立体構成の演習、講義を担当。
4.インターンシップの指導と研修先訪問（2013年春季）	2013年03月	建築学科2年生のインターンシップ活動の指導と各学生の研修先である建設会社、設計事務所などの訪問、研修先との打ち合わせなど
5.武庫川女子大学附属高等学校科学演習実験Ⅱ	2012年09月20日	附属高等学校SSH2年生対象の授業として、建築学科甲子園会館講義室において、建築空間の構成とデザイン手法について、折板構造の建築作品などを事例として概説し、建築教育についても具体的に紹介した。
6.インターンシップの指導と研修先訪問（2012年夏季）	2012年08月から2012年09月	建築学科2年生のインターンシップ活動の指導と各学生の研修先である建設会社、設計事務所などの訪問、研修先との打ち合わせなど
7.インターンシップの指導と研修作訪問（2012年春	2012年03月	建築学科1年生のインターンシップ活動の指導と各学生

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
4 その他		
季）		の研修先である建設会社、設計事務所などの訪問、研修先との打ち合わせなど

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1.一級建築士	1984年02月	
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1.武庫川女子大学FDニュース第９号「学科FDの取り組み」の執筆	2013年10月	学科FDに関して「建築学科の取り組み」について、UNESCO-UIAの定める建築教育憲章に適合したプログラムとして日本で初めてJABEEの認定を受けた建築学科のスタジオ型教育の実践を紹介している。
4 その他		
1.近畿大学政策社会学部卒業研究外部審査委員	2014年02月07日	近畿大学政策社会学部の第一期の卒業研究に対して、主として建築計画分野の論文および概要の査読、公聴会での講評などを担当。
2.2013年度JABEE認定審査チーム（F大学）	2013年11月10日から2013年11月12日	JABEE認定に関わる現地審査のメンバーとして3日間に渡り現地でのエビデンスの確認、関係者へのヒアリング、現地調査などに参加
3.日本建築学会査読委員	2010年04月から2010年06月	日本建築学会の論文集応募原稿の査読委員として、住宅の意味をテーマとした論文を査読し、評価を行った
4.日本建築協会情報・見学小委員会委員	～現在	日本建築協会の事業委員会に属する情報･見学小委員会において、各種の講演会、見学会などの企画･実施などを担当。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1.日本建築学会編　建築論事典	共	2008年09月	彰国社	上松、石川、市原、伊従、入江・・・ 前田忠直京都大学名誉教授を代表とする編集委員会における共著。第2部「建築家の思想」の中で、ノルウェーの建築論研究者・建築史家である「ノルベルグ＝シュルツ」に関する項目を担当。
2.ジャック・リュカン監修「ル・コルビュジエ事典」	共	2007年02月	中央公論美術出版	加藤邦男（監訳）、伊従、石坂・・・ 加藤邦男京都大学名誉教授の監修で科学研究費助成を受けたフランス、ポンピドー・センター企画のLe Corbusier une encyslopedieの翻訳。Ville／都市、Bata／バチャ、Lisickij／リスツキー、Lipchitz／リプシッツの章を担当。
2 学位論文				
3 学術論文				
1.HISTORICAL STUDY OF SITTING IN JAPAN : WITH ”SEIZA” AS MAIN TOPIC	単	2013年3月	Archi-Cultural Translations through the Silk Road, iaSU 2012 JAPAN Publication Committee, 武庫川女子大学出版部	日本人の座り方について、絵巻物や浮世絵などを参考にその歴史的変遷を概観し、今日、日本的な座法であると捉えられている正座が明治時代以降の近代化の一環として半ば強制的に教育されて広まったものであり、今後の日本における住生活を考える上で、さらに多様な座り方の意味を考慮し、またそうした意味を、周辺諸国の事例との比較検討を通して、多角的に検討してくべき必要性を示した。
2.Esquisse on Location of Psychaitric Hospitals in Osaka Prefecture and the Image of the Boundary of Osaka City in the Formative Period of ”Great	単	2012年03月31日	Intercultural Understanding Vol.2, Institute of Turkish Culture Studies, Mukogawa Women’s University	明治から昭和初期の「大大阪」形成期において急速に無秩序に広がった大阪市の範囲について、住民が抱いていたであろうその境界のイメージを、大阪府下に建設された精神病院の立地を手がかりに考察している。淀川や大和川など自然の境界の意味が意識されるとともに急速に発展した鉄道網により行政上の限定を超えて、大阪という都市のイメージが拡張し、その周辺部に精神病院が設置あるいは移設されてきたことが確認された。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
Osaka”（査読付）				
3.乙訓・西山の麓を歩いて－土地を読むこと・歴史を歩くこと	単	2009年03月	大阪成蹊大学芸術学部研究紀要No.5	長岡京市は、長岡京遷都以前より、大和・摂津と丹波・丹後を結ぶ丹波道の拠点であり、西国街道のはじまりで、江戸時代には西山三山への参詣者でも賑わってきた。こうした歴史的遺産への関心の高まりの一方で、外環状道路建設による景観破壊が進行する中、西山の歴史的空間構成について概説している。
4.「見る」パリと「歩く」パリ－「プロムナード・プランテ」と「ポン・デ・ザール」をめぐって	単	2008年03月	大阪成蹊大学芸術学部研究紀要No.4	パリ市では今日なおも魅力的なポケット・パークから大規模な都市公園まで、積極的に公園の建設を進めているが、その一例として、かつての鉄道高架を再利用した緑豊かな散歩道「プロムナード・プランテ」や学士院とルーヴル宮をつなぐ「ポン・デ・ザール」などをとりあげ、「歩く」という視点からパリの公園・緑地を再考した。
5.ヘルシンキ：都市の構成とデザイン・ディストリクト	単	2007年03月	大阪成蹊大学芸術学部研究紀要No.3	フィンランドの首都であるヘルシンキの都市構成の変遷を歴史的な地図などを手がかりに検討し、道路軸の方向の異なる都心部東部と西部との空間的雰囲気の違いを明らかにした。また世界的に注目を集めるフィンランド・デザインの創作活動を支えるショップや工房が集まる都心部西部のデザイン・ディストリクトの特徴についても考察を加えている。
6.ドレスデンのフラウエン教会とドライケーニッヒス教会の再建をめぐって	単	2006年03月	大阪成蹊大学芸術学部研究紀要No.2	第二次世界大戦後、戦争の悲惨さを語り継ぐための記念碑として残骸のままであったドレスデンのフラウエン教会が2005年に再建されたのを受けて、バロックの都・ドレスデンの美しい姿を紹介するとともに、新市街で重要な役割を果たしてきたドライケーニッヒス教会をも事例として、年の記憶と建物を「建てること」の意味を考え直している。
その他				
１．学会ゲストスピーカー				
２．学会発表				
1.HISTORICAL STUDY OF SITTING IN JAPAN : WITH ”SEIZA” ASMAIN TOPIC	単	2012年07月	2nd International Conference on Archi-Cultural Translations through the Silk Road (iaSU2012 JAPAN)	日本人の座り方について、絵巻物や浮世絵などを参考にその歴史的変遷を概観し、今日、日本的な座法であると捉えられている正座が明治時代以降の近代化の一環として半ば強制的に教育されて広まったものであり、今後の日本における住生活を考える上で、さらに多様な座り方の意味を考慮し、またそうした意味を、周辺諸国の事例との比較検討を通して、多角的に検討してくべき必要性を示した。
2.長屋の再考とグループリビングの可能性	単	2008年09月		近年、若者のあいだでも人気のある町家や長屋について、文献資料や落語などを通して、その原型の姿とその後の発展形について考察した。必要最小限のサイズの長屋において、中庭として、さまざまな家事活動が行われてきた路地に着目し、今後、街中で、高齢者とともに暮らすための可能性を探った。
3.「住まうこと／建てること」をめぐる建築論敵考察－その４．高齢者グループホームにおける「住まうこと」の意味－	単	2006年09月		「建てること」を「住まうこと」との関わりにおいて、私たちの基本的な在り方として捉える一事例として、近年、ようやく知られるようになってきた認知症の高齢者にとっての介護の場であるグループホームの計画に先立つ基本的な原理について考え直す。日本建築学会2006年度大会学術講演梗概集、所収。
4.「住まうこと／建てること」をめぐる建築論敵考察－その３．建築儀礼と「建てること」のブリコラージュ	単	2005年09月		地鎮祭などの日本におけるさまざまな建築儀礼において、「建てること」の基本的な意味を考察し、専門分化の進む建設技術とは一線を画した「素人の手業」としての「ブリコラージュ」という視点から「建てること」を「住まうこと」と結びつけて考え直す。日本建築学会2005年度大会学術講演梗概集、所収。
３．総説				

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
３．総説				
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
1.T病院（精神科）建築基本計画	共	2013年08月～		神戸市内の精神科病院の全面改築にむけて、病棟構成、看護体制の検討などとともに病院の全体計画、将来の福祉施設の増設も踏まえて、院長、副院長、看護部長、事務長などに対して、建築基本計画案を提示し、病室の設計、家具のデザインその他に至る、計画内容の具体化を進めている。株式会社風街設計社と共同作業。
2.京都府新総合資料館（仮称）公募設計競技　応募案	共	2011年08月		京都府が京都府立大学に隣接する一画に計画する京都府新総合資料館の設計コンペに対する武庫川女子大学、建築･都市デザインスタジオの応募案。
3.大阪成蹊大学芸術学部茨木キャンパス全体計画および基本設計		2009年04月		大阪成蹊大学芸術学部の新キャンパスとして、延べ面積14238㎡を計画。梓設計と共同作業。
4.「京（みやこ）の春に先駆けて」（創作行灯のデザイン）		2008年05月		京都・東山花灯路「創作行灯コンクール」応募作として、西山に産出する竹を素材として作品を制作・提案。
5.椅子のデザイン・制作		2007年04月		木製ボードの組み合わせによる椅子、角材を用いたハイ・スツールやパーティ・テーブルなどをデザイン、制作。
6.アンテナ・ショップでの展示作品・商品の制作		2007年04月		芸術学部環境デザイン学科の学生・教職員が共同で運営するアンテナ・ショップで展示・販売する商品として、展示パネル、ポスト・カード、ピン・バッジ、アクセサリーなどを企画・制作。
7.大阪成蹊大学芸術学部図書館閲覧棟新築計画及び施工		2005年04月		演習の一部として、学生とともに図書館閲覧棟を計画し、その後、建物の施工全般、書架、テーブルなどの家具のデザイン、制作を実施。基本設計、実施設計及び施工管理を担当。木造、平屋建。建築面積105.82㎡。
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1.JICA連携講座「ジョモ・ケニヤッタ農工大学（ケニヤ）でのJICA専門家の活動」（立命館大学・草津キャンパス）講義		2005年		
６．研究費の取得状況				

学会及び社会における活動等	
年月日	事項
	日本建築協会 日本生活文化史学会 日本建築学会